

## 「至誠通天」を座右の銘として (※1)

中第 41 回卒 小野田 英雄 (※2)

●小野田病院理事長院長 医学博士



〈写真は、顧英奇副大臣と北京飯店特別室にて〉

戦時中卒業した私達はやがて終戦を迎える事となった。

大変な屈辱と挫折感を味わいそして荒廃した中から再び立ち上らなければならなかった。日本全土が食糧難、住宅難と云う悪環境の中で学生生活を送ったが、逆に忍耐心、粘り強さの根性が培われ、同級生はそれなりに絆を強くしたものです。

多情多感な青春時代、同じ学び舎に過ぎた貴重な体験は還暦を超えてから非常になつかしい思い出となって蘇っています。

最近は出席者が一人又一人と少くなる同級会ではあるが、生ある限り同級生と

して大切にしたいものと思っています。

一度しかない青春時代を！！ 有意義に過ぎられるよう！！ 特に期待します。  
私の好きな座右の銘は「至誠通天」です。

- ・昭和 27 年 岩手医科大学医学部卒業 国家試験合格 東北大学武藤外科医局に入局 国立仙台病院外科勤務
- ・34 年 医学博士を授与され同年 7 月原町市に医院を開業
- ・36 年 病院に拡張し、その後医療法人に改組、理事長院長となる。(現在 228 床)
- ・昭和 41 年より相馬郡医師会理事 47 年より同会長 51 年より福島県医師会理事 (社)福島県病院協会副会長 (財)福島県社会保険協会理事 福島県医療法人協会々長 福島県病院厚生年金基金理事長 福島県医療審議会委員 全日本病院協会常任理事 日本医療法人協会理事 日本棋院相双支部長(六段)
- その間、福島県知事 厚生大臣 社会保険庁長官等より表彰され、更に 62 年秋には藍綬褒章を受章した。
- ・61 年 4 月 中国政府衛生部の招聘を受け、北京、天津両市の代表的病院を視察、顧英奇副大臣と会談帰国、62 年に 6 ヶ月間中国人医師を留学研修医として受入れた。
- ・63 年 4 月 アメリカ病院経営の実態調査の為、シカゴ、クリーブランド、ニューヨーク、ボストン、フェニックス、サンフランシスコ等各地の施設を 2 週間に亘り視察した。

(※1) 『紅の旗 創立 90 周年記念誌』 〈1988 (昭和 63) 年 9 月 2 日発行〉

「今こそ伝えたい、希望と勇気を」(OBから若駒への熱きメッセージ) より。

(※2) 高平出身。昭和 18 (1943) 年卒。岩手医大。

(転記&※脚注 村山)